

V 日高振興局

1. スターチステんぐ巢病発生対策

スターチステんぐ巢病は、花器の葉化や株の萎縮・叢生症状を示し、ヒメフタテンヨコバイ (Macros striifrons Anufriev) が媒介するファイトプラズマによって引き起こされる。本病は発病すると回復は見込めず、また、発病株が二次感染源となるため、早めに対策を実施しなければ大きな減収となることがある。

昨年、管内の複数園地において本病が多発し、園地によっては全体の6~8割以上の株に発病(5月頃)がみられたため、振興局ではJA紀州、暖地園芸センター、農業試験場と連携し、被害状況把握と原因の究明のため調査を実施している。

今年は、ヒメフタテンヨコバイのファイトプラズマ保毒状況を確認するため、昨年多発した園地周辺において、粘着トラップの設置およびすくい取り調査を行った。

その結果、粘着トラップに1頭が捕獲され、ファイトプラズマ検定において陽性となったことから、管内園地周辺にはファイトプラズマを保毒するヒメフタテンヨコバイが生息している可能性が高いと考えられた。

11月現在、管内園地において1圃場内で1~2株の発生となっており、昨年のような激発状況ではないが、引き続き、関係機関と連携し、保毒虫・保毒雑草の調査と発生状況の聞き取り調査、チラシ等による注意喚起を続けていく。



すくい取り調査の風景と
ヒメフタテンヨコバイ(右上)

**スターチステんぐ巢病
の発生が確認されています**

【代表的な病徴】

 「 萎縮症状 」 草丈の伸長が抑えられる	 「 叢生症状 」 枝分かれが異常に増加する	 「 葉化 」 花・ガクが葉になる
--	--	---

※疑わしい症状あれば宮農指導員や普及員へお知らせください!

【発病原因】

- 病原体：ファイトプラズマ(植物病原細菌)
- 媒介昆虫(ヒメフタテンヨコバイ)が植物の樹液を吸うことにより病原体が伝播される

ヒメフタテンヨコバイ
(Macrosia striifrons Anufriev)

- 成虫の体長は、約3~5mm
- 頭部に2つの点と細い黒帯がある
- 翅は透明、頭部は白色からやや黄色い
- 多種の植物(雑草・作物)を吸汁する

【対策】

- 発病株を早期に抜き取り、焼却するか地中に埋める
- ネオニコチノイド系薬剤(アルバリン、モスピラン等)によるアブラムシ等の同時防除が可能
- 防虫ネットを張り、侵入を予防する

日高野菜花き技術者協議会

啓発用チラシ

2. 由良町農業士会、ゆらっ子農業塾が町内児童に「ゆら早生」を配布

10月19日、由良町農業士会（会長：濱野一宏氏）とゆらっ子農業塾（塾長：中谷明博氏）が、町内の小中学校とこども園を訪れ、「ゆら早生」を配布する食育活動を行った。

本活動は、町内の園児及び小・中学生に町内で発見された良食味な極早生みかん「ゆら早生」を食べてもらうことにより、町内発祥の特産品への理解と親しみを深め、地産地消の大切さを学ぶことを目的に、平成25年から実施している。

今回は、「ゆら早生」の果実に加え、町内発祥である本品種についてより深く知ってもらうために紹介チラシを新たに作成し、併せて配布した。

由良町立衣奈小学校、白崎小学校には濱野一宏会長と中谷明博塾長が、由良小学校、由良中学校及びゆらこども園には数見隆一郎副会長及び山口貴生氏が訪問し、児童らに贈呈した。

濱野会長は、『「ゆら早生」は、由良町三尾川の山口寛二さんによって発見された、みかんの中でも最も早い時期に収穫できる品種です。見た目は青いですが、糖度がとても高いため、食べた時の味のインパクトが大きく、全国的に人気のある品種となりました。果実の下側に「しわ」が入っているみかんは「菊みかん」と呼ばれ、特に甘くて美味しいと言われているので、よく観察しながら味わってください』と説明した。

児童らは、「毎年立派なみかんを届けていただいて、とても嬉しいです。みんなで分けて美味しく頂きます」と笑顔で謝辞を述べた。



衣奈小学校で「ゆら早生」の贈呈を行う濱野会長(手前)と中谷塾長(奥)



新たに作成し配布した紹介チラシ